

令和5年度 学校評価報告書

学校番号(中31) 長崎市立(三川中)学校

1 教育目標

みんな楽しく
己を磨く ～自ら考え判断し、友と協力して、役立とうとする生徒の育成～

2 学校経営方針

日本国憲法・教育基本法等関係法令及び県・市の教育方針を踏まえ、教育の中心に生徒を据え、ふるさとに誇りを持ち、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。それで、私たちは「生徒の可能性」を信じ、生徒の持つ生まれた力を引き出すため、深い愛情を持って日々教育活動に邁進したい。予測困難な未来を生きる生徒に、主体性（気づく・考える・動く）を身に付け、夢の実現に向かって努力する生徒の育成を目指す。今年度も「校訓」を拠り所にした学校経営を行い、生徒に「確かな学力」と「社会性」をPDCAサイクルの実践を通して育成する。

3 重点目標

- 自律 「主体性の育成」 当事者意識を持たせ、継続している仕事・新しい仕事を自分から見つけるように促し、主体性（気づくー考えるー動く）の育成に取り組む。 ○自己有用感 ◎人前力 ○あいさつ ○学力
- 共生 「思いやり（多様性）の育成」 人の痛みがわかり、違いを個性として認め（多様性）、いじめや差別のない、生徒が安心して学べる居場所づくりを行い協働性の育成に取り組む。 ○学級づくり ○多様性 ◎思いやりを持って調整する力
- 創造 「本気の経験での感動」 涙が出るほどうれしいことや悔しいこと等の感動的な体験を経験させ、常に向上心を持って創造し続けようとする意欲の醸成に取り組む。 ◎発達段階に応じた課題 ○生徒中心の活動 ○振り返り（自己分析）

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	97	91	100	みんな楽しく「己を磨く」という学校教育目標の周知徹底は前年度以上に図られ、「思いやりを持って調整する力」を視点にした評価である。今後も学校教育目標を中心とした学校経営を継続していきたい。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	91	93	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			100	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			78	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	97	98	100	昨年度の課題であった自分の良さ・自己肯定感に関しては、9%も高まり、概ね良好となった。特定の生徒の頑張りだけでなく、生徒一人ひとりに、自己肯定感や達成感を感じさせる仕掛けが教育活動全体で行ってきた成果が出てきている。今後も引き続き取り組んでいきたい。いじめ・悩みなどの課題に関しては、常に配慮し、家庭と連携を図りながら未然防止に全力を傾けており、生徒、保護者、教職員全ての意識も高まった。
		挨拶をよくしている	97	100	89	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)				
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	97	91	89	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	96	91	89	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	100	100	100	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	94	82	100	
特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	99	95	100		
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	87	86	67	GIGAスクール構想の中、授業形態の改善に教職員は日々取り組んでいる。「主体的な学び」が重視され、自主学習を中心とした家庭学習の在り方や学習者支援端末の活用、AIドリルの利用など学校全体として目標数値をかなり上回る成果を出している。今後も努力し、個別最適な学習保証を継続していく。
		学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	95	95	
	キャリア教育	家庭学習の習慣が身に付いている	85	77	89	
		将来の自立に向けて適切に指導している	95	88	100	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	92			

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	97	96	100	昨年度同様、コロナ感染拡大防止・熱中症対策・インフルエンザ感染防止に追われた年度であった。行動が制限され、学習者用支援端末の活用・部活動や昼休みの過ごし方・給食の在り方など常に配慮が必要であった。今後も各取組がマンネリ化しないように徹底を図る必要がある。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	78	89	78	
		体力向上に努めている	97	95	89	
	食育	食に関する教育活動を行っている	95	93	89	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	100	96	100	HP・テトル・安全安心メール・学習者支援端末等の各種通信のバランスを考え、広報活動に努めた。安全対策については、地域・関係機関との連携を図りながら努めることができた。今後も継続していく。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	87	91	56	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	96	95	78	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			91	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	85	88	100	放送機器・電気系統の故障が続いているが、専門業者に改善してもらおう。安全点検を徹底し早期対応を心掛ける。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○学校教育目標『みんな楽しく 己を磨く』を実現するために、本校では『人前力(自ら気付き・考え・実行(表現)する)』の育成に努めているという点は、周知徹底が図られている。

○生徒会活動を中心に、さまざまな取組を行っているが、生徒のリーダーの育成と生徒自ら組織力を高めるための方策を教師がどのように指導するか、あるいは、個に応じた役割分担をどのようにやっていくかが課題である。

○学力向上・授業改善に関しては、三川スタンダードを基準に、規律・めあてとまとめ・自主学习といった点に関しても確実に指導してきた。学力調査等でも学力改善向上プランの実践により、顕著な向上が見られた。学習者支援端末の活用やA Iドリルの利用を行い、活用率は目標基準を大きく上回る結果となった。個別最適な学びと協働的な学びの充実を今後も進める。

6 学校関係者評価

○部活動にも、部員数の減少等もありながら、個人競技で好成績を残している点は、素晴らしいと感じる。

○地域内での生徒の様子は、あいさつなどしっかりとしている。地域行事として、門松づくりや鬼火たきなどボランティア活動などに積極的に参加している。小さい子供たちも生徒の様子をよく見ており、お手伝いもしている。つながりができているのを感じる。

○学力向上もある程度の成果を出している。

○部活動の地域以降に関して、中学校も本格的に進めていくべきである。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○学校教育目標を中心とした教育活動の展開については変わることなく、今後も生徒・保護者・教職員・地域一体となって取り組んでいく。

○地域内での生徒のあいさつは概ね良好である。しかし、地域では不審者情報もあり、あいさつを交わすことが難しい時もあった。自治会等で、わかりやすく目印(カード、腕章など)をつけることを検討してもらえるようにした。

○地域行事には積極的に参加できるようになった。今後も地域で活躍する中学生の姿が多くみられるようにしていく。

○生徒減少の中ではあるが、学習面・生活面の両面から個に応じた指導や支援が可能となる面がある。G I G Aスクール構想も相まって、個別最適な学習ができてきている。学習を支える生徒指導部会や特別支援部会が、一層組織的な指導体制になるように努めたい。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。